

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 052	提案機関名 長井町漁業協同組合
要望問題名 養殖ワカメの食害対策とワカメ品種改良と種苗生産について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当漁協では組合員のうち15経営体が、漁閑期の冬場にワカメ養殖を営んでおります。しかし、黒潮大蛇行が始まった5年前から沿岸水温が上昇し、陸上水槽から海面養殖施設に養殖場所を移動する10月以降（10月に仮沖だし、11月に種挿し）にアイゴ等の魚類による食害が酷く養殖ワカメ生産量が半減し、中には壊滅的なダメージを受けているワカメ養殖経営体も多くあります。 その対策として、下記事項に取り組み、ワカメの食害を何とか凌いでおります。 ①筏設置場所：筏設置場所を砂地の平間で比較的水温が低い場所に移動。 ②種挿し時期：17℃以上でアイゴの食害被害が多発するので種挿し時期を遅延させる ③親縄を30cmより浅目に設置し弛ませない。 ④食害対策防魚ネット設置：養殖筏を食害対策ネットで囲う しかし、種挿し時期の遅延や高水温下により成長の遅れが顕著なため、ワカメ種苗品種改良及び下記事項を要望いたします。 ①ワカメの品種改良：早く生育する①早生わかめ（冬でも水温が17℃以上のことがあるので）②耐高水温種苗（葉が大きく育ち肉厚で製品歩留りが良いものが良い）③葉の成長が良いワカメ ②ワカメ種苗生産：長井では5経営体が種苗生産をしているが、食害により種苗が全滅したり、高齢化に伴い種苗生産から撤退する漁業者が増えております。そこで水産技術センターでワカメの種苗生産及び配布をお願いします。 ③食害防護技術開発：安価で簡易に設置できる魚を防ぐワカメ食害対策ネットの開発や魚食性魚類の模型を使った水中案山子などの食害防護策試験の実施（その他の海藻養殖でも応用できるものが理想）	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター   ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター   ④自然環境保全センター
備考	冬場のワカメ養殖は、三浦半島地区の漁業者の多くが営み、魚閑期の重要な収入源となっているので、上記対策の検討をお願いいたします。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中   ③継続検討   ④実施済   ⑤調査指導対応   ⑥現地対応   ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 磯焼け対策事業費、フリー配偶体を用いたワカメの優良系統の開発		
対応の内容等	漁閑期となる冬場のワカメ養殖は、漁業者の重要な収入源となっていますが、近年、アイゴやボラ等による食害被害が発生するとともに、水温上昇等による生育阻害もあいまって、大きな影響を受けています。食害の防止を図り養殖筏を網で囲う「食害対策ネット」を設置する試験を行ったところ、対照の未設置筏ではアイゴによる壊滅的な食害被害があったのに対し、食害対策ネットを設置した養殖筏ではほとんど食害被害がなかった、というような結果も得られています。 引き続き、食害を減らすような筏の設置方法や養殖時期について工夫を行ったり、他県等での対策事例を収集・普及するなどすることで、食害被害の低減に努めてまいります。 一方、現在、県内各地からワカメの母藻を取り寄せ、これらからワカメの種に相当するフリー配偶体の確保を実施しています。今後、これらの中から、早生ワカメ、高水温耐性、高成長などの優良株を選抜して、優良系		

統の開発を図って参ります。

また、水産技術センターによるワカメ種苗の生産・配布はできませんが、漁業者自身による種糸生産の確保が出来るように、従来法よりも種糸の作成が容易なフリー配偶体を用いた新しいワカメの生産方法について、漁業者と協力しながら開発、普及を進めて参ります。

解決予定年限

① 1年以内

② 2～3年以内

③ 4～5年以内

④ 5～10年以内

備考